



# 或る日のこと

赤 づ き ん

「東郷大將は偉い僕大將になるんだ」肩章をつけ劍を着けて力み返つて居る甲太郎さん、先生が嬉しさにそれを眺めて居る、側で次郎君、「僕は大臣になるんだ」、

先生が何大臣か問ふと、次郎君一等偉い大臣になるよとこれまたそり返つて見せる。

先生考へた、あゝ子供の様に今直ぐなりたいたいものになれたり、そんなに嬉しいだらうと。

私だつたら文部大臣様になつて思ふやうに幼稚園の制度を作つて見たい、先づ次のやうに

満三歳から満四歳を一つに考へて家庭寮へ

満五歳から尋一、尋二を一つにして幼児學校

これは義務教育として、子供時代を十分に遊ばせながら基礎教育がして見たい。野を走らせ山を昇らす間に人間教育は充分に出来る學習的取り扱ひも母の懷で楽しく遊びなが

ら出来る、七、八ッ迄は母の手で育てたい。ふとそばで同僚の聲、何を考へていらつしやるの恩給のこと、まあさうぢやないのよ、一寸今大臣様になつたことならばと思つたの、まあさう貴女が大臣様になつたら一番に願ひ出るこゝがあるわ、何に、年功加俸、それは考へてませんの、私だつたら幼稚園は今の處大金持が奉仕的に出資して幼稚園をさしぎし建て、國家のお助をすべきだと思ひますわ、そして公立幼稚園は、一部は義務教育へ一部は社會事業へ乗り出して幼稚園へ入れられない親達の足手まさいをさしぎしと入園させるのです、そして、道ばたで土まみれになつて鼻汁たらした子供は一人も見ることが出来なくなりほんに結構な事ですね。貴女の考への方がよろしいわ、富豪は富豪で自足自給ですね。そして大臣がブルジョアとして私立を認可するのですね。分りました。國家はつまり自足自

給の出来ない無産者を助けるのですね、まあ早く云へばさうですがそれは門戸開放です。決して表面そんなにはつきりしないのです。

又お話ですか、子供さん達は、あそこでお友達同志で仲よく保育されて居ますよ、こうやつて母の眼がこゝにあると思つたら安心して居ますよ。この母が入る事が出来たらなんさか云つて来るでせう。それミ、今年の夏の、倉橋先生の御講習中力説された藝術教育、これは子供にもでせうが私はつくづく保姆私達にこの藝術教育がこの眞の心持が必要であるこミを思ひました、昔の先生方に御會してみらさゆつたりさした處があつてお話が實に興味性に富んで無邪氣ですね。私達ミ來たら眼をきよろつかせて死神にでもつかれて居るやうですね、これも時勢でせう、經費節減で幼稚園費ははじめな程へらされて年齢制限は出来、後からおつかけられて居るやうな形ですもの。恩給を計算し、生活不安を話し合ふのでは藝術心もあつたものではありませんよ。

あゝ話が又私事になりましたね、然しごこまでも幼児教

育は藝術教育であり眞秘教育であり心ミ心の暗示教育であるのですね、私達の心の不安定は即ち子供に反影しますね。

安らかなこの世の天國に嵐は吹かぬものと思つて居ましたが、時の流れは恐ろしいものです、然しいつまでもそんなこミを云つて居ないで互に天職ミ思つてその使命に有難く雄々しく進んで懸命な努力をして認めて頂きませう。

倉橋先生の今年の新語、「しみじみさした明朗さ」これをせめてもこの幼児時代にこの世の樂園花園で小鳥のやうしむじみさした明朗さで過させませう、それは私達までも救はれる一歩です。あゝ甲太郎の大將君ミ次郎の大臣君がこちらへやつて來ます、あのはち切れさうな嬉しさを御覽下さい。こんな話した私達は子供に對して相濟まぬ事ですね。

「二人ミもごめんなさいよ先生が悪いんだ。」

「うゝん、先生は悪くない僕等のよい先生だ。」

「よい一等よい先生だ。」

うしろで太陽はニコニコ悠々さした静けさ烈々さしたしかも細い愛の手を擴げて居る限りないあの温い光の手。

でも私達は幸福だ。